

戸田康之さん『節分』

戸田です。手話ネームではこのように表します。よろしく。
今日は節分についてお話しします。

私は今、ろう学校の幼稚部の教員をしています。幼稚部には節分の行事があります。豆まきを子どもたちと一緒にやるんです。2月3日当日だけではなく、2月1日から3日間やります。鬼役は先生です。日ごとに交代で鬼役を引き受けます。

2月1日は聴者の先生が鬼をやりました。鬼の面をかぶり、衣装や小物を身に着けて子どもたちを驚かすのですが、1日目は子どもたちから離れた場所からやります。校舎の2階から窓を開けて、外にいる子どもたちに姿を見せて威嚇するだけです。子どもたちは鬼を見つけて、「あ、鬼がいる！！もしかしたらこっちに来るかも…」とこわごわ待つのです。

2月2日は別の先生が鬼役をやりました。鬼は前日から少し子どもたちに近づいて1階に行きますが、まだ子どもたちからは離れた所で脅かします。

そして本番の2月3日。この日の鬼役は私でした。面をつけ、角の生えたもじゃもじゃ頭のかつらをかぶり、筋骨隆々のコスチュームと金棒を身に着けました。子どもたちからは誰なのか分からないはずです。勢いよく外に飛び出し、子どもたちを追いかけます。子どもたちは突然鬼が出てきてびっくり。泣きながら逃げ回る子もいました。そして持っていた豆を鬼に投げつけて楽しく鬼退治をしました。

中には、豆ではなく、家で作ってきたらしきプレゼントを投げってくる女の子がいました。なんでこんなものを投げたのだろうと中を開けるとおもちゃと手紙が入っていました。読んでみると「鬼さん、お願いします。私は鬼がとっても怖いんです。プレゼントをあげますからもう来ないでください」と書かれていました。子どもなりに一生懸命考えたんだなあと思いました。豆を投げて鬼退治するだけではなくて、鬼がもう来ないようにする方法を考えてプレゼントをあげることを思いついたのだと思って感心しました。

豆まきは終わって鬼は出ていき、鬼役の私は洋服に着替えて子どもたちのところにしれっと戻り、子どもたちと「鬼が来たの？怖かった？」などと話をしていました。その時ある女の子が「鬼やったの戸田先生でしょ？」と言ってきたのです。私は「先生は会議に出てたから鬼のことなんて知らないよ」としらばっくりましたが、「あれは絶対戸田先生だった」と言うのです。どうして分かるのか聞くと、「耳の形が同じだった」と答えました。お面やかつら、衣装を身に着けていても、隠れていなかった耳だけを見てその日の鬼役の先生を見分けていたんです。すごいと思いました。ろうの子どもたちはさすがに目ざといですね。